

表紙のことば

Y. H.

「Viva バリエンテ ハッピースマイル～見て！僕と私～」

私の祖父が他界してから11年たちますが、その祖父が生前、言っていたことがあって、「考えることは、いくらでもできる」ということでした。

そこで私は、作業療法にそれを取り入れることにしました。

作品を見たときに誰もが笑顔になるように考えながら取り組むことにしました。

実際、作品ができたときの達成感が私の喜びでもあります。

これからも祖父の言葉を守りながら、何事にも活用していきたいと思います。

作品をつくるにあたっては、頭に浮かんだイメージに対して誰もが笑顔になるように心がけて考えて、前回の作品よりも楽しめるように、私も出来上がりを楽しみにしながら制作しています。



今月の作品

本コーナーでは、表紙にご応募いただいた作品の中から毎月1点をご紹介します。



宇賀村源三「あまり無理しない」

作者は重度の麻痺があり、車いす生活でした。入院生活は、介助されることが多く、誰かと話をすることが多くはありませんでした。リハでも機能維持がメインとなっていました。ある日、私は機能訓練の合間に書字を提示しました。そして鉛筆を持った手からは言葉が出てくる…出てくる…。その言葉一つひとつは、98年間の多くの経験をしたからこそその言葉、身体が不自由になったからこそその想い等がたくさん溢れました。その日以来、筆と紙を渡し自由に想いを書いていただき、今でもその書はリハ室に来た人を勇気づけています。

(担当 OT：唐木 瞳)